

中国を見て・感じて・探る…大連事務所発のレポート

大連のネットニュース「天健ネット日本語版」より

### 上半期、中国の対日貿易赤字が 260 億ドルに

中国税関総署が 10 日発表したデータによると、1～6 月の中国の輸出入総額は 1 兆 7036 億 7000 ドルで、前年同期比 25.8% 増となった。うち輸出は 8743 億ドルで 24% 増、輸入は 8293 億 7000 万ドルで 27.6% 増。貿易黒字は 449 億 3000 万ドルで、同 18.2% 減だった。

東日本大震災の中日貿易への影響について、税関総署総合統計司の鄭躍声司長は次のように述べた。

今年 3 月の日本の東日本大震災は中日二国間貿易に一定の影響を与えた。今年上半期、中日二国間貿易総額は 19% 増の 1623 億 5000 万ドルで、同期の中国の貿易総額の 9.5% を占め、日本は 87 億 7000 万ドルの差で ASEAN に次いで、中国 4 番目の貿易相

手国となった。上半期の中国の対日貿易赤字は 260 億 3000 万ドルで、前年同時比で 0.8%減だった。

また、欧米輸出市場について、「欧米は我が国の主要輸出市場であり、その景気回復ペースは緩慢で、失業率も高位にとどまっており、住民消費意欲の低迷が続いているなどで、中国の欧米向け輸出は明らかに鈍化した」と躍声司長は指摘した。

今年上半期の中国の対 EU と対米輸出額はそれぞれ 1644 億 8000 万ドルと 1455 億 1000 万ドルで、伸び率は同じ 16.9%で、同期の 24%の貿易総額伸び率を大きく下回った。主要輸出市場の景気低迷が中国の安定的な輸出の維持に厳しい試練となっている。

日本人にはちょっと意外な見出し。これだけ日本には、中国製のものがあふれているのに貿易収支では、日本の黒字・中国の赤字となっている。大連は、対日貿易黒字の都市であり、今でも日系の電機メーカーで作られた製品が日本に輸出されている。大連に住む日本人には中国が対日貿易赤字であることが少々信じがたい。

現在の日本の貿易は、最大の最終製品市場であるアメリカでは位置が低下し、高級品や高技術資本財に特化している。アメリカでは自動車や電気製品など大量に売れる商品は韓国・中国・台湾メーカーが優勢になっている。

しかし、アジア域内での分業が鮮明化し、日本はハイテク素材(化学、メタル、セラミックなど)、ハイテク部品、ハイテク機械に特化。最終製品は限られた高級品・先端技術分野に限定されつつある。日本企業による最終完成品生産も、大量に売れる品はアジアへ生産をシフトしている。

日本が特化しつつあるハイテク素材(化学、メタル、セラミックなど)、ハイテク部品、ハイテク機械、高級かつ先端技術分野の最終製品は技術的ブラックボックスを持ち、非価格競争力が依然強く、アジアメーカーは追いつくことが難しい。またこのような製品は、価格主導権を持ち円高時にはドル建て輸出価格も引き上げられている。

アジアの中では、技術集約度の高いブラックボックス(素材・部品・装置)が日本、技術力がある組立製品が韓国・台湾、労働力がある組立工程が中国・東南アジア諸国という地域的な分業ができあがり、アジア諸国でモノを作れば作るほど日本の高価なブラックボックスを輸入せざるを得ない状態となっている。

さらに、その組立で得た収入によりアジアの人々が豊かになれば、ハイレベルな製品を買うようになる。このハイレベルな製品には、日本のブラックボックスが必要で、アジアで売れば売れるだけ日本からの輸入が増える。このようなシナジー効果で、現在日本は、アジアの中で独り勝ち状態。日本の対アジア諸国の貿易黒字はうなぎのぼりに増えている。

かつての日本の輸出と言えば、最初は繊維や重工業製品だった。それがアジア諸国に取って変わられ、次に、電気製品や自動車、電子機器にシフトした。しかし、それもコスト競争に勝ち抜くため、現地生産せざる得なくなり工場がどんどん海外へ流出し日本の空洞化を招いた。

しかし、今は、海外で製品を作るためになくてはならない部品や素材を、その技術を守るために日本国内で作り、それを海外へ輸出している。技術立国・日本の底力が対アジア貿易黒字額に現れている。